

留学報告書
～一生忘れない3つのこと～

メンフィス大学
外国語学部生（中期）

私は、2年前に中期留学に行く予定だったのですが、コロナウイルス感染症の流行により、中止と延期を繰り返してきました。初めて中止が決まった時は、英語学習のモチベーションがなくなってしまい、少し気分が落ち込んでしまった時期がありました。1年間必死に勉強した時間が無駄になってしまうのかと、とても悲しくなった時もありました。しかし、私が2年生になった時に、コロナ禍の中でアメリカに留学した友人がいました。これを機に、もしかしたら自分にもチャンスがくるかも知れないという気持ちと、このままではいけないという気持ちが出てきて、英語の勉強をまた始めることにしました。それ以降、私は名古屋学院大学が用意してくれた英語のクラスやランゲージ・テーブルに参加してきました。そして、4年生になって留学に行けるというお知らせをもらいました。絶対に留学したいという気持ちが強かったため、4年生で卒業するための単位を取得したり、就職活動に励んできました。8月までに就職先を決めなければならなかったのですが、就職活動期間は本当に不安でした。そのため、出発の1週間前はついに行けるんだと毎日ドキドキしていました。アメリカに到着して、4ヶ月間メンフィス大学で経験した忘れたくない出来事をこの報告書で紹介したいと思います。

私の一生忘れたくない出来事の1つ目は、「人の温かさ」です。日本を出国する際に、メンフィスを知っている周りの人たちからは「メンフィスは少し危ない地域だよ」というように言われていました。私は、その言葉を間に受けて、メンフィスに行くことにとっても不安を感じていました。なぜなら、人生初めての海外に一人でいくからです。知り合いもおらず、現地の人と過ごしていく自信があまりありませんでした。私は、メンフィスに行って、早速2件ほど身の周りで事件が起きました。特に、2件目の事件では、授業中に人生初めてのロックダウンを経験しました。その日はナイトクラスを履修していました。毎回ナイトクラスには、自転車で行っていました。私は、ロックダウンで2時間ほど教室の外に出られず、校舎の外からパトカーのサイレンが聞こえてきて、とても怖かった記憶があります。クラスメイトが車で帰っていくのを何度も見送って、私はこの事件が解決するまで帰ることができないのだと、すごく不安になりました。しかし、クラスメイトの一人が私に帰る術がなく残っているところを見つけてくれて、「寮まで乗せていってあげるよ」と声をかけてくれました。また、クラスの先生は私とクラスメイトを外まで見送ってくれました。私は、気遣いをしてくれるメンフィスの人たちの多さに感動しました。というのも、この日だけでなく、ESLの先生がライティングの相談に乗ってくれたり、現地の友達が毎週の食料の買い出しに付き合ってくれたり、車で様々なメンフィスの素敵なスポットを案内してくれて4ヶ月の間に沢山の人の温かさを感じました。また、コロナウイルス感染症にかかった時は友達が必要なものを買ってきて届けてくれたりしてくれました。ここで述べたいのは、私のメンフィスでの4ヶ月間は人の温かみは必要不可欠だったということです。沢山の人の助けをもらったこと、気にかけてもらったことに感謝しています。

次に、私が一生忘れたくないことの2つ目は、「素敵なスポットが多いこと」です。私がメンフィスにきて、初めて行った場所は、「Bass Pro Shops at the Pyramid」です。これは、ミシシッピ川の近くにある大きなアウトドア用品ショップです。建物の形は名前の通り、ピラミットの形をしていました。私がこの場所を素敵だと感じた理由として、建物の中に大きな水槽があり、魚が泳いでいたり、本物のワニがいる場所があったりしてアウトドア感満載の場所だったからです。また、違う日に行った際はそこのスタッフさんが魚の餌やりしているシーンを見ることもできました。水族館ではないのに魚と本物のワ



ニがいるショップ、そしてそういったお店は日本になかなかないこともあり、素敵かつ面白い場所だったという印象が強いです。

このお店の近くに「Peabody Hotel」という有名なホテルもありました。その素敵ポイントは、ホテルの内装がとてもレトロで歴史を感じるところです。ホテルの中に大きな噴水や大きなピアノがあって豪華さを感じる装飾ばかりでした。このホテルは建物内をカモの行列が歩くことで有名だそうです。このホテルに2回訪れたことがあります、どちらもカモの行列を見ることはできませんでした。しかし、噴水の中を泳いでいるカモを見ることができたので満足です。

メンフィスはJAZZの街として有名です。そんなメンフィスの雰囲気を存分に楽しめる場所が

「Beale Street」です。レストランやダイナーから常に音楽が聞こえてきます。「Hard Rock Cafe」には、エルヴィス・プレスリーの使っていた楽器が飾ってあって、感激しました。私は、Beale Streetに2回行ったことがあるのですが、季節によって少し雰囲気が違うのが素敵ポイントでした。アメリカに来てからとクリスマスシーズンに行ったのですが、装飾や街の人たちの雰囲気も違うのが感じられてとても楽しかったです。夏に行った時は、観光客や現地の人たちで賑わっていたのですが、クリスマスシーズンは、冬ということもありBeale Streetに来ていた人が少なく、静かな雰囲気でした。夜になると看板のネオンがカラフルに光っていてとても綺麗でした。

そして、3つ目の一生忘れたくない出来事は、アメリカの伝統行事に参加できたことです。私は、10月末にコロナウイルスに罹ってしまったため、ハロウィンは経験できませんでしたが、Thanksgivingをアメリカの友達の家族の家で数日過ごすことができました。日本にはないイベントなので、留学に行く前から経験してみたいと思っていました。留学先で仲良くなった友達がアメリカで何がしたいの？と聞いてくれた時があり、アメリカのイベントを経験したいんだと伝えたら、家族で集まるからおいでよと誘ってくれました。友達の実家に行く時に家族と英語でうまく話せるかドキドキしていたのですが、実際に会ってみるとそんな緊張を忘れさせてくれるくらい大きな愛で包み込んでくれて、日本や家族の話をして充実した時間を過ごすことができました。また、家族と食べた食事がとても美味しく感動しました。特に、お母さんが作ってくれたスイートポテト料理が本当に美味しく、大好きな料理になりました。お母さんにスイートポテトの料理がとても美味しかったと伝えたら、寮に帰る時にお土産でく



れました。みんなでご飯を食べた後に、友達と一緒に来ていたルームメイトと一緒にスモアを食べました。友達の実家のテラスに大きな暖炉があったので、3人でスモアパーティーをしました。友達のルームメイトがボーイスカウトに所属していたこともあって、スモアを作るコツを教えてくださいました。彼のおかげで、美味しいスモアを作ることができました。私がThanksgivingのことを忘れたくないと思った理由は、沢山の人の優しさを感じたからです。上で述べたように、友達のお母さんが美味しい料理をご馳走してくれたり、ルームメイトがスモアを美味しく作れるように教えてくれたりしてくれました。それだけではなく、友達のお父さんは私が緊張していることに気づいてくれていて緊張をほぐそうとココアをくれたり、沢山の質問をして話しやすい空気を作ってくれました。1つ目で述べた人の温かさとは違う温かさを感じました。言葉に表すのは難しいのですが、友達の家族は私が自分の家族のように接してくれていたように感じました。私は、そんな友達の家族が大好きです。

私は、留学に行って日本以上の人の温かさを感じました。私は、メンフィスは危険なところと聞いていたので、友達や頼れる人ができるかととても不安でした。しかし、現地に行ってみて友達と一緒に行動していれば、危険な目に遭うこともあまりなく楽しく過ごすことができました。また、困

ったことがあればいつでも寄り添ってくれる友達を作ることができました。私は、そんな友達と4ヶ月間過ごせて幸せです。